

令和8年度島根大学大学院

教育学研究科入試問題（Ⅱ期）

《教育実践開発専攻（専門職学位課程）》

小論文（出題意図）

現行の学習指導要領での日本の初等中等教育は、全国学力・状況調査やOECDのPISA調査における地域格差や学力格差の改善等で一定の成果をあげている。その一方で、学ぶ意欲を十分に見いだせず、主体的に学びに向かうことのできない子どもの増加の顕在化という課題に直面している。子ども自らが、興味や関心を持ち、協働や対話を通じて資質・能力を高めることは「学び続ける」ことの基本となる。これからの学校で活躍する教師には、児童生徒が主体的に学ぶための授業づくりの観点と学びのための学習環境づくりの観点で、「主体的・対話的で深い学びの実現」を自ら考えていく資質・能力は不可欠であるため、この二つの観点から具体策を総合的に考察できる力を確認する。